



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

Jun. 1985 III-12

THEME (1984~'85)

- I. P. 「今こそ行動のとき」
- R. D. 「限りなき熱情を奉仕に」
- D. G. 「奉仕と誠をもって前進しよう」
- P. 「創ろう新しい伝統を」

◆ 「身体障害者への奉仕」強調月間(日本区)

6月例会プログラム

- とき 6月19日(水) 18:30~20:30
 ところ 大阪YMCA会館 9階集会室
- | | | |
|------------------------|----|--------|
| | 司会 | 坂口芳良君 |
| 1. 開 会 | | 中村 会長 |
| 2. ワイズソング | | 一 同 |
| 3. 聖句朗読 | | 上月英子姉 |
| 4. ゲスト紹介 | | 中村 会長 |
| 5. 食前感謝「日々の糧」晩さん | | 一 同 |
| 6. 新旧役員交代式 | 司式 | 灰谷中西部長 |
| 7. 中西部長挨拶 | | |
| 8. 新旧会長挨拶 | | |
| 9. 日本区大会の報告 | | |
| 10. 誕生日のお祝い | | |
| 11. ニコニコアワー | | |
| 12. 役員会、委員会報告、YMCAニュース | | |
| 13. 閉 会 | | 中村 会長 |
- ▼例会当番(岡本、上月、坂口、田中、長安、山中)

◆ 第2例会

とき 6月26日(水) 18:30~20:30
 ところ YMCA国際・社会奉仕センター

◆ 誕生日おめでとう

- | | |
|-----------|------------|
| 鈴木 美藤メネット | 6月4日 |
| 長安 敏夫君 | 1936年6月8日 |
| 照屋 貞夫君 | 1942年6月13日 |
| 照屋 育子メネット | 6月24日 |
| 横山 豊君 | 1947年6月13日 |
| 平田 雅利君 | 1943年6月25日 |
| 平田由喜子メネット | 6月20日 |
| 黒田 俊子メネット | 6月26日 |

1984~1985 役員

- | | | | |
|------|------|----|------|
| 会 長 | 中村隆幸 | 書記 | 堀 利満 |
| 副会長 | 山田孝彦 | | 藤井保男 |
| | 長安敏夫 | 会計 | 柴田 健 |
| 直前会長 | 山中秀男 | | 浦野啓一 |
| 担当主事 | 田中稜二 | | |

Those whom I love rebuke and discipline.
 So be earnest, and repent. Here I am /
 I stand at the door and knock.

If anyone hears my voice and open the
 door, I will go in and eat with him
 and he with me.

わたしは愛する者を皆、叱ったり、しつめたりする。
 だから、熱心に努めよ。悔い改めよ。見よ、わたしは
 戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞
 いて戸を開ける者があれば、わたしは入ってその者と
 ともに食事をし、彼もまた、わたしとともに食事をす
 るであろう。

(ヨハネへの黙示 3章19節~20節)

5月例会出席者 (在籍会員36名)

	第1例会	第2例会	Make UP	累 計
メ ン	21名	12名	なし	21名
出 席 率	58.33%			58.33%
メ ネット	3名			
コ ネット	1名			
ヴィジター	3名			
計	28名	12名		

- ◇ ヴィジター 遊上義一・津恵子夫妻(大阪クラブ)
山本公一君(枚方クラブ)
- ◇ メ ネット 鈴木、中村、山中 各メネット
- ◇ コ ネット 中村 圭ちゃん

◆ BFポイント 現金 86,000P.T
 切手 20,550P.T 累計 106,550P.T

◆第1例会の記録

○センテニアル・メンバーによるスピーチの今期第3弾は、海外旅行の大ベテラン165回のキャリアの持主で、かつIBC委員長でもある松添君により、卓話「海外旅行裏話」が披露された。

世界各国のスミズミまで熟知されている豊富な知識、体験談が、世界地図に基づき、日頃聞いたことのない貴重な裏話を中心に、色々で紹介され、参会者全員が終始興味深く話に聞きほれた。



世界地図を前に数々の裏話をされる松添君

なかでもニュージーランドの素晴らしさは、一度は必ず訪問してみたいという気にさせられた。

しかし、世界広しといえども、日本ほどよい国はないということが、改めて認識させられた。特に“水”と“安全(治安)”は世界一との折紙がつけられ、一同安心するやらホッとするやら、とても有意義な話であった。



海外旅行の裏話を熱心に聞き入る参加者

○今席には、ヴィジターとして大阪クラブより遊上君ご夫妻と枚方クラブより山本公一君が出席され、共に松添君の卓話を楽しく聞いた。また、山本君からは今年1月中西部合同新年例会でホスト役をつとめた当クラブに対し、お礼の言葉が述べられた。

○当月の会場は例月と異なり、1階上の10階で催されたが、外の眺めと内部の雰囲気がいさ少し変わったせいか、ニコニコの方も17,800円と前月のちょうど半分であった。



今月の聖句によせて

キリスト教の神は愛の神であることは屢々述べてきましたが、まことの愛は時には、きびしく叱ったり、訓練をするものです。ここでは、私どもの安逸な生活に対し、厳しく反省を迫っているようです。また神は、私どもの心のとびらを外から絶えずノックしておられるのですが、心の扉は、内側にしか把手(knok)がなく、外側からは開けられないのです。ですから私達は、神を迎え入れるためには、みづから手で戸をあげなければなりません。そして、若し心のとびらをあけるならば、キリストは、中に入ってこられて一緒に親しく食事をしましよと誘いかけて下さっています。「食事を共にする」ということは、最も親しい人間関係をつくる方法です。余談ですがワイズの例会が、必ず食事を共にするようになっているのも、会員同志の親睦をはかるためと思います。みづから把手をとって、心のとびらをあける勇気と決断を神は求めておられるのです。(黒田 巖之)

◆第2例会の記録

1. 6月例会プログラムの決定
2. 例会出欠の返信方法について
 - ・出欠の返信ハガキは必ず期日までに投函する。
 - ・ブリテン完成日との絡みから、出欠は別便にて月初めに往復ハガキでとる。
 - ・第1例会の食事方法の検討を行った。
3. 他クラブへのブリテン送付について
 - ・中西部では従来から中西部内各クラブのブリテンを一括まとめて他クラブへ送付していたが、今年度新規よりこれをやめることになった。
 - ・他クラブへの送付については、各クラブの判断にまかせることになったため、当クラブも方針を検討する。
 - ・他クラブのブリテンに関しては、内容面で秀れたものやユニークな記事等が掲載されているため、当クラブのブリテンにもそれらについて紹介コーナーを設けることにした。
4. 1985年度 センテニアルクラブ事業委員会の委員の最終選考を行い別表のように決定、承認された。
5. 国際BF代表中西部歓迎会について
 - ・アメリカよりBF代表のG. F. Gustatson 夫妻が6月13日(木)、14日(金)に来阪され、センテニアルクラブが歓迎会のホスト役を引受けることになった。
 - ・ご夫妻は両日も当クラブの鈴木君宅へホームステイされるが、13日(木)午後6時30分より、大阪YMCA会館にて歓迎会が催される。
 - ・詳細に関しては、藤井書記より6月初めに案内されるので、特にホスト役である当クラブからは多数の出席を望む。

日本人が忘れてはならない人
— ヒュー・ポートン博士 —

黒田 巖之

今年の4月末頃のテレビで、第二次大戦後、日本が分割占領されるか否かの運命を決めた戦争秘話が放映されたことを記憶しておられる方も多いと思うが、この話は、是非語り伝えるべき内容と思ひ、改めてその概略を紹介したい。

日米開戦は1941年(昭和16年)であったが、その翌年に、既にアメリカでは戦後の対策を検討する戦後処理委員会がつくられ、その極東班では、日本の戦後処理について協議が進められていた。その極東班(4~5名で編成)は殆どが民間人で構成されていたが、その中にヒュー・ポートン博士がいた。彼はある大学の助教授であったが、若き日に夫人と共に5年間滞日した経験の持主であった。

1942年と云えば、ミッドウェー海戦のあった年で、日本人は大本営の誇大宣伝に躍らされ、勝った、勝ったと有頂天になっていた頃のことである。

当初戦後処理委員会の計画は、北海道、奥羽地方はソ連が、関東、中部、近畿地方はアメリカが、中国、九州地方は英国が、そして四国は中華民国が夫々分割統治する案であった。これはドイツに対する分割統治の案に沿ったものであったという。この案を支持する人は多く、特にルーズベルト大統領の信任の厚かったモーゲンソー財務長官が強く支持していたのであった。

これに対し知日派で占められていた極東班は、グルー元駐日大使(その頃は國務長官代理)に支持されて、日本人の心情を深く汲みとり、日本のような単一言語の国家の統治は、天皇制を残さずれば統御しやすいとの考え方から、アメリカ一国による占領を強く主張したのであった。

ところが1954年、ルーズベルト大統領の急逝により、モーゲンソー財務長官らに代表される日本分割統治案は影がうすくなり、極東班、特にヒュー・ポートン博士の主張の、アメリカ一国による統治案が抬頭して終戦を迎えた。

今、ひるがえって、若し日本が、米英中ソ四国により分割統治されていたならばと考えると、慄然とする。現在の日本の繁栄はあり得なかつたし、親子、兄弟、親族が東西対立にまきこまれ、日本人同志の殺りくが、境界線上で行なわれたと想像される。

日本人は京都、奈良をB29の爆撃から救ったウォーナー博士のことはよく知っているが、日本の分割統治を回避することに功績のあったヒュー・ポートン博士のことも忘れてはならないと思う。

博士は現在81才で、マサチューセッツ州の片田舎で夫人と静かに余生を送っておられるが、夫人と腕をくんで、静かに坂道を上って来られたテレビの最後のシーンは印象的であった。

考えれば博士の若き日の日本の生活において出会われた日本人の善意と友情が、博士を親日家にさせ、結果的に日本を救ったとさえ云えることを思うと、ワイズの国際交流

の機会のひとつひとつが、如何に重要な意味をもっているかに深く思いをいたすものである。

大阪センテニアル・ワイズメンズクラブ
1985年度 役員・事業委員分担表

会 長	山田 孝彦	会計監査	上月 英子
副会長	森 庄司	担当主事	田中 穰二
"	藤井 保男	幹 事	杉本恭之助
書 記	藤本 史郎	"	中村 隆幸
"	松本 常晃	"	山中 秀男
会 計	浦野 啓一		

事 業	委員長	副委員長	委 員
ブ リ テ ン	中村	村田	藤井、福永(聖句担当)
YMCAサービス	黒田	山村	河野、照屋
Y E E P	山中	森	坂口
I B C	堀	横山	松添
B F	皆本	鈴木	桂、瀬戸、多田
A S F	柴田	長安	岡本
C S	平田	安福	川越
E M C	松添	谷川	上月、村田
プログラム	藤井	中川	谷川、山田
ファン	杉本	藤本	鈴木
ドライバー	河野	浦野	松本
M E T	正司	福永	杉本
メ ネット	山田		

NEWS IN BRIEF

- 私達のブラザー、ヌアヌ・クラブのステーブ・ウォン氏が、今年7月からハワイ区の理事となります。センテニアル・クラブ一行がハワイ訪問の際は、彼がRDです。もしお祝いのメッセージを贈るなら：
Stephen Wong
98-1477-A Kaahumanu
AIEA, HI 96701
- 去る5月5日、京都ウエストクラブの五周年記念の記念例会が京都の「しょうざん」で行なわれました。当クラブから、谷川君夫妻が出席しました。
- 去る4月27日より3日間、大阪YMCA呼子高原のキャンプサイトに中西部の有志約20名が、見学を兼ねて訪問、3泊しました。当クラブから谷川君が参加しました。来年も5月の連休に中西部の旅行を考えているそうです。参加しませんか？



ワイズ用語の解説

鈴木 謙介

ワイズには英語が多く使われる。平素余りなじんでいないとそのイミがわからない言葉に弱ることがある。わからないのに知ったふりをするのもいやなことだ。調べてみると大変面白いことが発見された。というようなことを読者にも期待し、自分にも期待し、向う1年間位毎号にワイズ用語解説のようなものを書かせてもらうこととしました。面白く読んでいたゞために、廻り道をして途中の景色の鑑賞をおすすめすることもあると思います。出来ればメネットさんのご批評に耐えるような文章になるとよいと願いますけれど、それは無理というものかも知れない。私の心の中では少しばかりは、おそれたことをしてみたい気持ちが動きつつあるようですが、これまた無理なことでしょう。ともあれワイズ用語解説第1号としてタイムオブファスト(断食の時) TIME OF FAST という英語を訳してこのことばが出来ました。断食なんて一寸見当はずれなこと、ワイズはまさか修行道場でもあるまいし、えらい旧時代な感じと受け取られるのはやむを得ない。このごろ日本語にもなったファストフードレストラン(ケンタッキーフライドチキン、牛どん屋 など)どちらもファストだが、断食と敏速とはどうも結びつけられない。意味もちがう。しかし双方とも食べることに関連するので、なにかひっかかりはしないかと連想してみると面白い。

BREAKFAST(ブレックファスト)は朝めしのことだが文字をよくみるとFAST(断食)をBREAK(破る、やめる)という語源があるらしい。人間の文明の歴史の中の食文化はきわめて重要なことだから、どうも東洋の君子国では食べ物のことの談議はいやしいとされてきたのであったが、どういふものか、ちかごろ食べ物談議が幅をきかせてきたのは何故だろうか。よそのクラブのブリテンを見ると、安くておいしい店の紹介欄を設けて食べ歩き(記)なんてのをシリーズものにしてしているところがあるし、何か会合を催すとすると食べる物が大きい関心事である。現在の日本のように、一億総中産階級に属し、ヘンピな所であっても遠いところの名物を食べるようなことができるし、昔はとて口にすることも出来なかった外国の珍らしい食物が、どこでも食べられることになったこの時代ではあるが、中産階級と自負される方々の昼食がモリソバ一杯、あるいは少しハリこんで天井、カツ丼という割合貧弱なものをお腹に入れているのは他に使わねばならぬ用途がいろいろあるからであろうか。

さて断食にもどることとして、食を断つというのは食べるものがあってそれを断つだから、見方によってはぜいたくな話ではあるまいか。もともと断食はむかし宗教的行事や習慣から人間が行ったのは東洋、西洋ともに同じことが行われたが、現今食べることが十分な国の人々が食べたくとも食べる物の無い国の人々のために、食を減らして食

物を贈るといふのは、現代的意味での断食にあたると思われる。世界は一つ、人類は兄弟。どこかで見る標語を用いなくても、余りにも明々白々な事柄であって談議の余地はまったく無い。

戦争中一億総動員とか一億なんとなんとなんとかといつて一つの国民全部がヒルめしを抜いたらどうだろう。とても何百艘の船では送りきれないだろうし、食料の大輸出国である米国辺りの農村に大打撃を与えることになる。贈った食料の麻袋が港で山積みされて腐ってしまっているとか、どこかの国では悪い連中にとり上げられてしまってほんとに必要な人々のところには到達していないなんてことはまことにこまりものである。

世界中のワイズが一定の月を強調月として一食又は二食を節して集めたお金は馬鹿にならない。最近のところで、約8万ドル(2,000万円)にもなっている。昨年までは南米ウルグアイのコチャバンパの貧しい町のYMCAのために用いられた。今年はガーナ、セネガル、パングラディッシュ、パナマの貧しい少年少女のために10万ドルを目標として集めて贈ることになる。これらの金を何処に用いるかというSelection委員長を我がクラブの谷川君がやっているのは我がクラブの名誉である。

さて我がクラブでは昨年ほとんど例会でみんな揃って断食を実行し、一食を節してその代金を供出した。今年は会社の帰りみちでお腹が空いているので何か軽いスナックをとろうということになってクッキーやビスケット(メネットさん準備)を紅茶で随時少しずつとった。どちらが良いか。もっと良い方法はないか。来年はもっと考えてみるとよいと思われる。次号ではC.S.(これ又英語の略でうるさいが)とB.F.について漫語をつづけることとさせて頂きたい。

————— YMCA ニュース —————

▼ 協力会費のご継続のお願い

協力会費継続のご依頼状を先日発送いたしました。手続未了の方は是非ご継続をお願いします。また協力会員の手続きをなされてない方には依頼状を発送いたしましたのでよろしく願います。

▼ 国際機関志望者セミナーはじまる。

去る5月15日付の日本経済新聞で記事として大きくとり上げられましたので、お読みの方も多いかと思いますが、定員の倍以上の応募者があり、盛況裡にスタートしました。

このセミナーが立派な国際人養成の一助になるよう願っています。

▼ 奉仕センター・文化センターのプログラム

国際社会奉仕センター

国際理解公開講座・"民間海外協力の現状と課題"

6月21日・6:30~8:30

国際文化センター

講演会・"路地の庶民生活と中国近代化"

6月27日・6:30~8:30

